

学会記事

2007年度 第6回理事会 議事録

2007年11月20日
日本地質学会 会長 木村 学

期 日：2007年11月10日（土）

12：00～17：20

場 所：地質学会事務局

出席者：木村会長、佃副会長、渡部常務理事・天野副常務理事・Wallis・上砂・狩野・公文・倉本・斎藤・中山・藤本、宮下・向山 各理事、

欠席理事（委任状）：伊藤副会長・久田・矢島

* 成立員数（12/17）に対し、出席者 14名、委任状 3名、欠席者 0名で、理事会は成立。

* 07-4および07-5理事会議事録について確認し、署名がなされた。

報 告

1. 運営財政部会（部会長-上砂，中山，向山，倉本）

総務委員会（委員長-上砂）

・第5回ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ高校生科学技術チャレンジ

最終審査会表彰式，交流会案内

・第5回火山都市会議島原大会開会式招待状→欠席

・出版者著作権協議会より，日本複写権センターから同協議会に分配された著作権使用料（平成17年度徴収分）の配分額（27000円）の提示があった。

<他団体の会合，後援など>

・第45回アイソトープ・放射線研究会の共催を承諾した。運営委員としてご本人の了解を得て小笠原正継会員を推薦した。

会員関係（担当理事-中山）

1) 入会の承認（正2名，うち院2）椎野勇太 岡庭信幸

退会（正1名）大庭正八

逝去（正1名）佐々木清隆（9/13）

2) 10月末日会員数

賛助34，名誉74，正4,426（うち院270），準39，合計4,573（前年比 -62）

3) 会員名簿2007年版作成，大幅に作業が遅れたが，11月号に同封して発送。

4) 会員減少対策について

中山理事より，支部単位での各種取り組みについて関東支部での提案があり，来年度事業計画の中で，計画を進めることとした。

関連学会連合（担当理事-天野）

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

学術会議関係報告（木村会長=連携会員）

会計関係（担当理事-向山）

・札幌大会収支は，赤字となる見込み（約70万円）

広報委員会（担当理事-倉本）

・広報関連事業案について

広報委員会の来年度事業計画の説明があり，評議員会への事業計画案にとりまてていくこととした。

ニュース誌編集小委員会（担当理事-倉本）

インターネット運営小委員会（委員長-坂口有人）

・11/5より，選挙情報の公開に伴い，HPの「会員のページ」を公開した。旧HP同様会員番号等でのログインが必要。

・地質学雑誌の表紙に関して，インターネット委員会での一新する際の見本が議論されている。

・選挙のマニフェストを公表した。現時点で175名アクセス。

2. 学術研究部会（部会長-公文，）

行事委員会（斎藤委員長）

・秋田大会企画（→議題へ）

・2009岡山大会について：会場について交渉中（岡山理大あるいは岡山大）

・2010年以降の開催地について，各支部に対しローテーションの説明と開催地候補の早期決定について協力依頼を出した。これらの経緯も含めて，全体の方針を12月評議員会で報告することとした。

専門部会連絡委員会（担当理事-天野）

・部会参加登録について，案内記事をNews誌11号に掲載し，部会名簿の整備を行う。

国際交流委員会（公文 国際特任理事）

・韓国との国際交流のために，10月25日に会長ならびに高木日韓小委員会委員長が訪韓し，日韓地質学会の学術交流協定の調印をした。

・モンゴル等との交流を計画

南極地質研究委員会（委員長-廣井美邦）

地質環境の長期安定性に関する委員会（委員長-吉田英一）

3. 編集出版部会（部会長-狩野，久田，宮下，Wallis）

地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野 副委員長-久田，宮下=企画担当）

・今月の編集状況は以下の通りです（11月9日現在）。

113-10月号：論説3・短報1・口絵1（約45ページ。発行済）

113-11月号：論説2・ノート1・口絵1（約42ページ+校正中）

・2007年度投稿論文総数66編〔論説45（和文44+欧文1），総説7（和文7），短報11（和文10 欧文1），ノート3（和文3）〕口絵8（和文5 欧文3）※うち46件が電子投稿

投稿数昨年比 -25 査読中 43編
受理済み 8編（うち 教育特集4 口絵2）

企画部会報告（宮下）

・岩森 光会員を編集委員に追加する事が承認された。

Island arc編集委員会（担当理事-Wallis，事務局局長-竹内圭史・角替敏昭）

1. 編集状況

・2007年16巻の年間契約ページ数576～最大620p

1号 Pictorial 1編，特集6編，一般8編。210p。（科研費18年度計画540pに対し560p）

2号 一般7編。108p.

3号 フィリピン海特集7編，一般5編。186p.

4号 Pictorial 1編，一般5編，Indexほか。103p. WEBで公開済み，12月発行を早める見込み。

年間607p. 契約に基づき2008年（600p）から31p前借りする。

・2008年17巻の年間契約ページ数は600-31=569p

17巻1号 Pictorial 1編，一般10編，176p予定。（科研費19年度計画700pに対し592p見込み）

2. 特集

フィリピン海特集：Guest Editors小原・徳山・Stern

全11編のうち7編を16-3号掲載。残り4編は後日一般として掲載する。

板谷特集：GE板谷・Sajeev・Wallis

6編受付済み，うち1編受理。受理1編はWEBで先行公開する。

久田特集：GE久田・Yumul（IGCP 516）

全24編受付済み。17-4号・18-1号分割掲載を予定。

HKT（ヒマラヤ）特集：GE Wallis・Aitchison・Ali

全7-8編に変更，7編受付済み。掲載は18-3号以降になる。

08年集会の特集の打診も来ている。

3. 投稿状況

07年10ヶ月で新規投稿92編（特集10+6+

24 + 7 編, 一般41編, 口絵4編).

一般に限っても原稿過多になっている.
2008年受付原稿から無料15pに減らす

4. 2007年10月の学会ニュース誌の表紙は Online Earlyで既に公表されたIsland Arc pictorialの一部と酷似していることで Island Arc編集委員会からニュース編集委員長に訂正と謝罪を求める連絡をした. (→議題へ)

Island arc連絡調整委員会 (委員長-会田, 担当理事-Wallis)

- ・11/9 W-B社との懇談内容について報告があった
- ・補助金申請報告と将来のIAR出版契約関連
- ・理事会審議の結果に基づき, 来年度の出版費補助金の申請を取りやめた.

企画出版委員会 (担当理事-藤本)

- ・地質環境長期安定性研究委員会 (吉田英一委員長) よりリーフレット2件「日本列島地質環境の長期安定性」(20年度), 「地下地質環境とその安全性」(21年度)の企画申請があった. (→議題へ)
- ・リーフレット, 屋久島たんけんマップについて
地質学会の出版物として企画を進めると報告された.

4. 普及教育事業部会 (部会長-矢島, 藤本)
地学教育委員会 (委員長-阿部国広)
・地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」
・連合地学オリンピック小委員会 (久田委員)

国際地学オリンピック概要: 連合ではNPOを立ち上げて国際地学オリンピックへ対応をすとの報告があり, 経緯を見ていくこととした.

生涯教育委員会 (委員長-柴 正博)

地質基準委員会 (委員長-新妻信明)

地層名委員会 (委員長-天野)

- ・アルゼンチン地層名委員会では, Tertiary, Quaternaryをそのまま使うとの報告あり. 日本としても, 学会としての対応方針を本委員会検討し, 国内各機関との調整に当たることとした.

5. その他

支部長連絡会議 (担当理事-伊藤)

- ・12月の支部長連絡会議開催を検討したが, 開催しないこととした.

地質災害委員会 (担当理事-天野)

JABEE委員会 (委員長-天野)

- ・特別会計収支予算 (大学評価研究委託事業) の承認について承諾の返事をした. その結果, 賛成多数で予算が承認されたことが報告された.

技術者継続教育委員会 (PDE) (委員長-公

文)

ジオパーク推進委員会 (担当理事, 佃委員長)

- ・自治体による連絡協議会が発足.
- ・環境庁が本格的に活動を開始した.

学会就業規則整備委員会 (委員長-立石雅昭)

- ・12月評議員会に中間報告, 来年3月に最終答申が出されるとの報告があった. 公務員給与法の改正に対応した中間報告を受け次第, 理事会として学会事務局職員給与への反映方針を直ちに伝えることとした.

6. 選挙管理委員会 (委員長-加藤潔)

- ・11月5日, 選挙管理委員会を開催し, 役員選挙の立候補者の確認と選挙広報等の原稿作成を行った.
- ・立候補者: 会長2名, 副会長3名, 監事1名, 代議員全国区51名, 地方区50名.
- ・監事, 代議員地方区は定員どおりであったので, 無投票当選とすることを確認した.
- ・理事会に対し, 選挙管理委員会規約の改正について要望書を提出した. (→議題へ)

【以下, 理事会および評議員会の下の委員会】

名誉会員推薦委員会 (伊藤副会長)

- ・委員 (12名) の選出について検討し, 12月の理事会までに決定.
支部長 (7名)・階層別 (5名): 大学, 官公庁, 会社, 小中高, 理事会

各賞選考委員会 (委員長-安藤寿男)

女性地球科学者の未来を考える委員会 (委員長-大友幸子)

法人化実行委員会 (委員長-齊藤靖二)

法務委員会 (担当理事: 委員長-上砂)

- ・学会としての「利益相反行為」に関する事項で法務委員会を開催した.
日時・場所: 11月6日18:00~, 学会事務局

日本地質学会は, 会員・事務局員に対し, 事業の公平性とそれに裏づけられた自発的な活動を実施している. これらの事業の公平性が時として衝突する場が起り得ることがあり, 事業の公平性が衝突した場合, とくに重視すべき項目を「熊本の利益相反」「産総研の利益相反マネジメント実施規程」を参考に検討した.

- ・倫理規定策定委員会 (委員長-松本 良)

オンライン化委員会 (委員長-齊藤 眞)

地質学史アーカイブス委員会 (委員長-会田信行)

7. 4 役会議審議内容

- ・地震防災に向けた地質学の貢献について

札幌大会での緊急パネルディスカッションの報告 (HP掲載済み) を受け, 11月に新潟で企画されている第2弾の準備状況の報告があった. 一方, 国の防災・立地に如何にそれを反映させていけるかについては, 佃副会長が現状の安全審査等での地質学的情報や評価の反映方法等について, 学会役員を対象とした勉強会セッションを12月評議員会場で設定し, 今後の活動等についての意見を頂くこととした.

○審議事項

1. 08年以降のアイランドアーク科研費申請, W-B社からの提案・IAR出版契約関連について

- ・来年度のアイランドアークの科研費申請を中止する.
- ・その場合の影響として, 2009年以降の無料オンラインアクセス不可 (2008年は保証する). 会員にとって最大可能なサービスを保証するために, 2008年のアクセス数を参考にして, W-B社と一緒に案を検討する.
- ・事務費補助として, 08年よりW-B社から100万円 (これまで30万円) が支給される予定, その他ロイヤリティー (8%, おおよそ100万円前後) 収入が見込まれる.
- ・2008年から3年間発行可能なページ数は毎年10%増加する予定である.

2. リーフレット企画について

1) 下記の2件の企画が提案された. 現時点では, 内容についての再検討が必要ということになった.

①日本列島地質環境の長期安定性 (20年度), 執筆予定者: 高橋, 金折, 梅田, 藤原

②地下地質環境とその安定性 (21年度), 執筆予定者: 吉田, 田中, 山本, 天野

・趣旨を明瞭にする必要がある. 当面はシンポジウムや地質学雑誌での出版などが必要であろう.

・地質学会として総合的に検討する必要がある.

・まずは地質学会としてのコンセンサスが必要である.

2) 屋久島リーフレットについて

・屋久島地学同好会と地学教育委員会との共同編集とする.

・12月に地学教育委員が現地調査に入る.

3. 秋田大会の企画承認

・秋田大会の柱について議論した.

1) 学会事業は基本的に札幌大会で実施されたものを引き継ぐ.

2) 当面, 東北支部の担当者との打ち合わせの計画する (評議員会前).

3) 評議員会後に秋田大関係者との打ち合わせ.

4. 来年度事業方針の策定について

・基本的に重要な事業計画については, 来

月の評議員会に提示する。2名の会長候補者のマニフェストに共通する内容については盛り込むこととする。

5. 来年度事業計画, 予算計画

・次年度予算編成について以下のような希望が提案され, 予算編成全体の中で検討することとした。

- 1) 学生評議員の評議員会参加旅費の援助
- 2) 支部活動経費を70万円から100万円に増額する。プロジェクトごとに援助することを目的として検討する。プロジェクト計画については, 各支部から提出してもらう。

3) 教育委員会: 活動費10万円, 地学読本講演会10万円。

4) 広報委員会: 広報委員会立ち上げ=50万円, 広報誌・勧誘パンフレット制作=30万円, HP強化=英訳(145万円)アンケート機能強化(3万5千円), 地質学雑誌表紙変更=25万円

5) 地質学雑誌の表紙を変える方向で来年度検討する。

・IYPEの活動の予算化が必要である。広報委員会, 行事委員会, 会計委員会で具体的な検討を行う。

6. 役員補充に係る選挙細則の補強について

・現職非改選理事が会長・副会長に当選した場合は, 当落にかかわらず当該選挙結果の総会承認時に現職を辞すこととした。

・理事の欠員補充にあたって, 補欠が無い場合は選挙を行う。

・会長・副会長選挙落選者は, 補欠選挙に際して, 代議員として立候補が可能である。

以上の内容による細則修正案を12月評議員会で評議し, 本年度選挙での適用を目指すこととした。

7. 選挙管理委員会規約の改正について

・選管委員長による事務職員の選管補助要員への任命について選管規約に追加する。

・選挙管理委員と選管補助要員の役員立候補および推薦, 選挙活動の禁止について選管規約に追加する。

8. ニュース誌10月号の表紙がIsland Arc pictorialの一部と酷似していることについて

問題の事実確認, 今回の対応の決定, 今後の対策

・ニュース誌編集委員会よりW-B社およびアイランドアーク編集委員会に対して, 事前の連絡の不備と, ピクチャルの趣旨に照らして先行掲載したことに遺憾を表明した謝罪文を出すこととした。

・一般会員に対しては, ニュース誌に, 今回の事情の説明と今後の一般的な引用法についての注意を印刷する。

9. 12月評議員会議題について

1) 来年度事業方針案, 来年度事業計画案, 予算計画案の提示

2) 規約の改正

3) それ以外の議題についてはオンラインで確定することとした。

10. その他

(1) 新カテゴリ「報告」への投稿に関して

まだ新規投稿はないものの, これから投稿が見込まれるとの報告があった。

(2) 運営細則の文言について, 以下の修正を決定し, 評議員会に報告することとした。

第14条(3), 第37条2: The Island ArcのTheを削除し, Island Arcとする。

第14条(4) 学校教育委員会→地学教育委員会とする。

第21条7項(2): 科研費委員会を削除。

第34条(4): 10年ごとに発行を削除

第34条(5): 不定期を削除

第37条1:(4), (5) 削除する。以下(6)→(4), (7)→(5)に繰上げ。

第37条2: 日本岩石鉱物鉱床学会→日本鉱物科学会に変更

(3) 投稿規定の修正: 以下の修正を評議員会に報告することとした。

Ⅲ 外国語原稿 5.

修正前>論説・総説ならびに短報の外国語原稿には, 外国語による要旨に加え, 日本語による著者名と要旨とをつける。

修正後>論説・総説・短報・報告の外国語原稿には, 外国語による要旨をつけ, 論説・総説には, さらに日本語による要旨もつける。

Ⅳ 印刷原稿 1. a.

修正前>論説・総説については, 最大限20ページまでを認める。ただし, 16ページを超過する分については, 印刷費の一部を著者負担とする。

修正後>論説・総説については, 委員会が適当と認めた場合, 原稿の長さを超過することができる。ただし, 16ページを超過する分については, 印刷費の一部を著者負担とする。

2007年度 第3回 定例評議員会議事録

2008年1月8日

日本地質学会

評議員会議長 新井田清信

副議長 保柳 康一

日 時: 2007年12月15日(土)

13:00-17:10

場 所: 北とびあ 901会議室(東京都北区王子)

出席者:

(評議員18名) <留任> 会田信行 安藤寿男 石垣 忍 石渡 明 井龍康文 新井田清信 渡辺真人

<新任> 阿部国広 永広昌之 大友幸子 川端清司 北里 洋 沢田順弘 柴 正博 高木秀雄 新妻信明 保柳康一 三宅康幸

(理事14名) 伊藤谷生副会長 佃 栄吉副会長 渡部芳夫 天野一男 上砂正一 狩野謙一 公文富士夫 斎藤 真 Simon Wallis 中山俊雄 久田健一郎 向山 栄

藤本光一郎 宮下純夫(事務局) 橋辺菊恵 欠席者 評議員(委任状20名): 浅野俊雄 足立勝治 荒戸裕之 磯崎行雄 卜部厚志 岡 孝雄 小山内康人 加藤 進 紺谷吉弘 酒井治孝 徐 垣 中川光弘 針金由美子 堀 利栄 松岡 篤 松本俊幸 丸山茂徳 山路 敦 山根 誠 脇田浩二

欠席者 評議員(委任状なし2名): 井内美郎 松田博貴

理事(3名): 木村 学会長 倉本真一 矢鳥道子

* 成立員数(21/40)に対し, 出席18名, 委任状20名で, 評議員会は成立。

* はじめに, 北里 洋, 井龍康文両評議員を書記に選出。

* 会長を代理して, 伊藤副会長が開会の挨拶を行った。

報告事項

I 理事会報告

1 運営財政部会

1) 総務委員会

庶務関係(担当理事-上砂)

・鉱物学会と岩鉱学会の合併により日本鉱物科学会が9月22日に設立された。

・日本土地環境学会2007年シンポジウム「土壌汚染対策の現状と今後」(11/10)の協賛を承諾。

・第45回アイソトープ・放射線研究会の共催を承諾。運営委員として小笠原正継会員を推薦。

・原子力総合シンポジウム2008(2008年5月開催)の共催を承諾, 共催分担金5000円。運営委員として高橋正樹会員を推薦。

・第12回岩の力学国内シンポジウム(2008年9月2-4日)の協賛依頼を前回同様に承諾。

・富士山学会より「富士山に科学(学術)的説明看板を設置する運動」への参加依頼を承諾した。専門委員として高橋正樹会員を推薦した。

JABEE委員会(委員長-天野)

報告事項なし

技術者継続教育(CPD)委員会(委員長-担当理事-公文)

・土質・地質技術者生涯教育協議会の活動について